新婦人しんぶん

新日本婦人の会目的

☆核戦争の危険から女性と子どもの生命をまもります。
☆憲法改悪に反対、軍国主義復活を阻止します。
☆生活の向上、女性の権利、子どものしあわせのために力をあわせます。
☆日本の独立と民主主義、女性の解放をかちとります。
☆世界の女性と手をつなぎ、永遠の平和をうちたてます。

今週の紙面

■2面　女性ニュース／4月からの新連載　■3面　読者のページ／まんが／俳句　■4面　婦人保護／あのころ／LGBT／文化情報　■5面　憲法講座／ホットライン　■6面　手帳活用術／もう一品／母の歴史　■7面　新婦人のページ／主張／40代の体

神戸市　石井皇子

新日本婦人の会は国連に認証されたNGOです

コロナ、自己責任、戦争…政治を自分ごとに

コロナ禍、社会のゆがみがあぶりだされ、21世紀とは思えない戦争の光景を目の当たりにしています。政治が大きく私たちに関わってきている今、7月の参議院選挙を前に、政治学者の中島岳志さんに聞きました。

政治学者　中島岳志さんに聞く

なかじまたけし　政治学者、1975年大阪府生まれ。東京工業大学リベラルアーツ研究教育院教授、未来の人類研究センター教授を兼任。専門は南アジア地域研究、近代日本政治思想。著書に『自分ごとの政治学「わたし」から世界を見つめる』（NHK出版）、『「利他」とは何か』（集英社新書）など多数

『思いがけず利他』ミシマ社　1600円＋税

「核武装」は防衛ではない　戦争の危険性が増すだけ

―ロシア軍のウクライナ侵略で女性や市民の犠牲が日々広がるなか、「戦争やめよ」と世界がでプーチン政権を包囲していますが、日本の政治がおかしい…。

日本の一部では、「核武装論」が語られていたりします。ウクライナは核兵器を手放したために、ロシアからの侵攻を許した、だから日本は周辺諸国からの侵攻を防ぐために核武装すべきという議論ですね。これには細心の注意が必要です。

核武装というのは日本にとっては「防衛」のつもりかもしれませんが、相手国にとっては日本の攻撃力の増強にほかなりません。そのため国家間の緊張が高まり、戦争の危険性が増加します。

与党議員が核武装を口にするということは、それ自体が近隣諸国のとの緊張を高めることになります。ロシアによる侵略戦争によって、世界のパワーバランスが揺らいでいる中、政治家は発言に十分に気を付けなければなりません。日本の核武装論は、周辺国に誤ったメッセージを与えることになります。

今回の戦争で、原発の存在が、攻撃のターゲットになることも明らかになりました。相手国は、核兵器を有していなくても、原発の攻撃によって、同等のダメージを与えることが出来ます。原発を有していること自体が、戦争時のリスクを格段に上げることになります。日本は特に日本海側に原発が立ち並んでおり、その海の向こう側に、安全保障上の懸念をもつ国が存在します。原発をなくすことは、防衛戦略という観点からも重要な意味を持ちます。

自己責任の社会をどう乗り越えるか

―政治の転換が求められ、私たちの選択が問われていますね。一方でコロナ禍が女性に襲いかかっています。先生は「自分ごとの政治学」や「利他（た）」ということも研究されています。

「利他」とは〝利己〟の反対で、他者のために行動すること。社会の中で他人と関わる視点をもつことです。

そもそもは、自己責任論をどう超えたらよいのかとずっと考えていたのです。小泉構造改革から約20年の新自由主義にどう対抗するかが、私の中での大きな研究テーマでした。

政治学者は対抗策として富の再分配やセーフティネットなどの政策を打ち出しました。〝全部自分でやってくださいね〟となると、何かあるとやっぱり人は転がり落ちやすい。政治がちゃんと下支えしましょうという運動やいろいろなことを書いてきましたが、新自由主義路線を止められない。

小さな政府や自己責任を掲げる方が支持を集めたり、自分たちはがんばっているのに怠けているのは許せないと生活保護バッシングがわぁっと盛り上がったりする。

この人間観をどう超えればと考えたときに、政策論だけでなく、人のあり方そのものにメスを入れなくてはと、「利他プロジェクト」を始めたのです。

コロナ禍でみえた「利他」の価値

コロナ禍、大切なものが失われようとしたときにやっと私たちは「あ、あれは大事なものだったんだ」と気づきます。通っていたお店がつぶれそうになる、文化や音楽のイベントが開けなくなる。そこで今、クラウドファウンディングや支援グループなどが立ち上がっています。

身近な社会に目が向き、その場にいることの意味を確認できるような場、新しいコミュニティが無数に広がりつつあることは、自己責任論とは違う社会へ変わりうる新しい予兆です。

〈2面へ〉

【千葉・我孫子支部】地元スーパー前でのNOWAR宣伝行動に、知人を誘って初めて来た人や戦争体験者ら21人が参加。外に出るたび「ロシアはウクライナから撤退を」「核の威嚇は許さない」と怒っている人が増えているのを実感。カンパもたくさん寄せられた

発行所　新日本婦人の会　New Japan Women's Association　〒112―0002 東京都文京区小石川5-10-20　電話03(3814)9141(代)　編集部 03(5805)2370／Fax 03(5805)2372　振替00150-7-74582　1部105円　月410円（いずれも税込み、送料別）、会員は会費に含む　http://www.shinfujin.gr.jp
©新日本婦人の会2022年